

日本語能力考试备战系列

N1 文字词汇习题集

[日] 桑山哲郎 编著



上海外语教育出版社

外教社 SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS

www.sflep.com

175001
2024

日语能力考试备战系列

N1 文字词汇习题集

[日] 桑山哲郎 编著



W 上海外语教育出版社
外教社 SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS

图书在版编目(CIP)数据

N1 文字词汇习题集/(日)桑山哲郎著 一上海:上海外语教育出版社,2011
(日本语能力考试备战系列)

ISBN 978-7-5446-2223-3

I. ①N… II. ①桑… III. ①日语-词汇-水平考试-习题集 IV. ①H363-44

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2011) 第 027641 号

出版发行: 上海外语教育出版社

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn

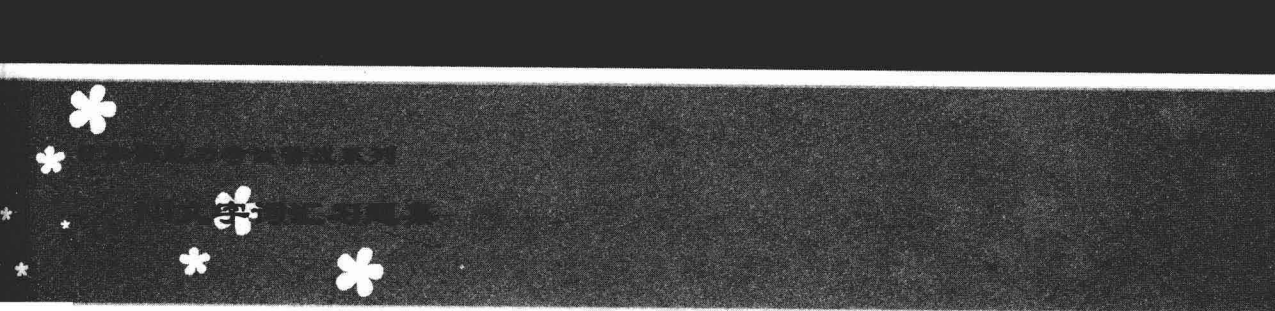
网 址: <http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>

责任编辑: 王 俊

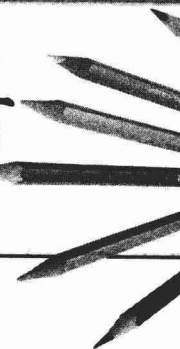
印 刷: 昆山市亭林彩印厂
开 本: 787×1092 1/16 印张 14.75 字数 345千字
版 次: 2011 年 7 月第 1 版 2011 年 7 月第 1 次印刷
印 数: 3 100 册

书 号: ISBN 978-7-5446-2223-3 / H · 1013
定 价: 26.00 元

本版图书如有印装质量问题,可向本社调换



前言



2010年7月起,新的日本语能力考试开始实施,本书就是根据新N1级的文字词汇出题标准而编写的习题集,笔者希望广大的学习者通过使用本书,能够更加系统合理地掌握N1文字词汇知识。

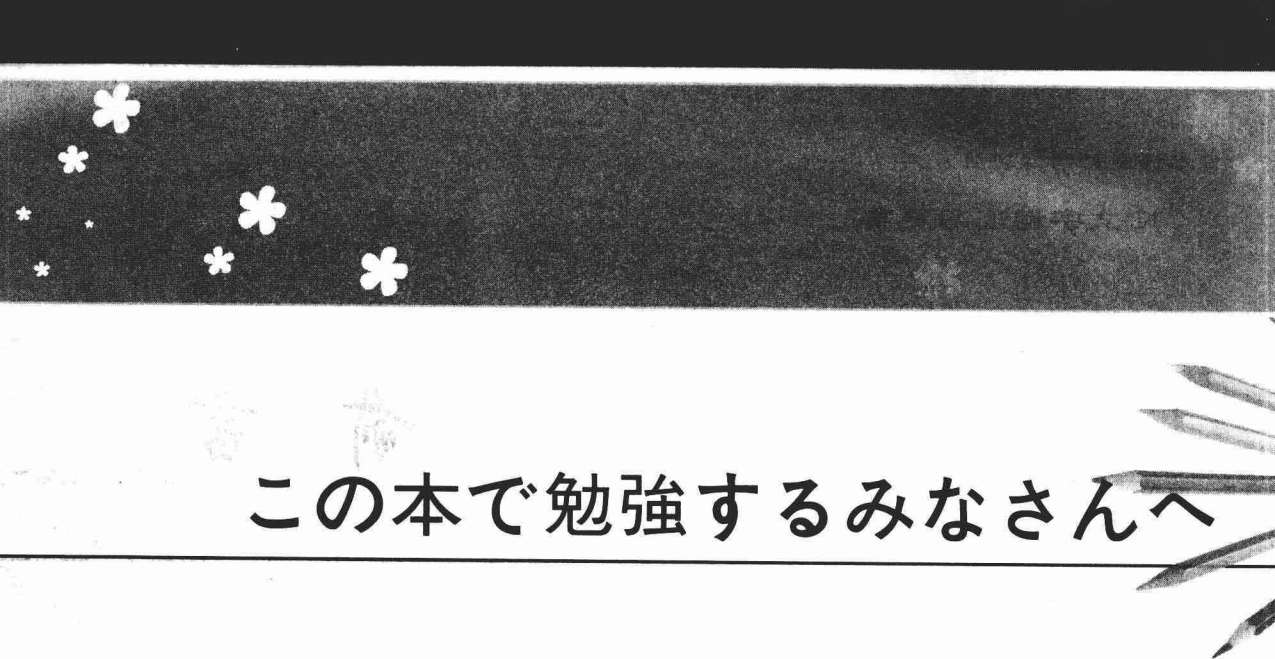
根据新出题标准,N1级考察的文字词汇内容包括汉字读法、上下文理解、同义词替换和词汇用法等,而在上下文理解中也涉及了复合词、派生词等词语构成上的知识,本书在开篇就对以上这些相关的知识进行了统括性的说明。

正文部分由七个单元组成,每单元主要针对不同的词性范畴对相关的知识进行概括和复习,也有介绍敬语知识以及惯用语、格言和谚语知识的内容。每单元分两部分,第一部分首先按照细致的分类,以填空题的形式对考点知识进行梳理,考生如果能够跟着本书的步骤将这些填空题做上一遍,就能对N1文字词汇部分的全部知识点进行一次整理和复习,从而起到温故知新、查漏补缺的作用。本部分以知识的整理为主,因此在做题的过程中可以查词典、找资料、看答案,也可以在课堂上老师的指导之下进行;第二部分则是按照能力考试N1文字词汇真题题型设计的大量练习,可供使用者了解和适应考试的题型,检验自己复习的效果,为参加考试做好准备工作。这部分练习最好独立完成,以检验和找出自己的薄弱环节,从而更好地进行有针对性的复习。两部分习题都附有答案。

笔者一直在中国从事日语教育工作,在多年和中国的日语学习者打交道的过程中,积累了一些中国人学习日语和参加日本语能力考试的知识,希望能在新的能力考试实施之际,将这些知识分享给中国更广大范围内的日语学习者。由于笔者水平有限,谬误在所难免,敬请读者批评指正。

2011年春

桑山哲郎



この本で勉強するみなさんへ

この本は、2010年7月から実施された新しい日本語能力試験 N1をめざす人が、日本語の文字・語彙をより体系的に、そしてより合理的に学習できるように編集しました。

1. 新しいN1の文字・語彙出題基準(漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法)に基づいて、練習問題をつくってあります。
2. 新しい日本語能力試験では、N2の試験に語形成(複合語、派生語など)の問題が出題されます。N1でも、文脈規定の問題の中でこの問題が出題されます。本書では、語彙の造語法(合成語の組み立て)について、詳しく説明してあります。
3. 日本語の総語彙の中で字音語(漢語と和製漢語)がほぼ半分近くを占めます。本書では、中国漢字と日本漢字との発音の関係、漢語の類語の使い分け等について、より詳しくわかりやすく学習できるように、問題をつくってあります。
4. 語彙の中で、動詞・名詞・形容詞は、文をつくるうえでの基本的な成分であり、また、副詞が重要なはたらきをしています。品詞別に、それぞれの語彙の類語を意味分類し、典型的な用例をあげて、問題をつくってあります。
5. 2010年文化庁答申の『敬語の指針』に基づいて、新しく敬語を分類してあります。基本的な問題をつくってあります。
6. 日本語にはオノマトペ(擬態語・擬声語)が豊富で表現を豊かにしています。日常生活でよく使う擬態語・擬声語の意味と用法を学んでください。
7. 身体名詞を使った慣用句やことわざ・格言なども、日本語の背景として重要です。併せて、学んでください。

2011年 春

桑山哲郎

目次

日本語の文字・語彙について

1. 日本語の漢字音	1
2. 日本語の語彙	3
3. 日本語の語彙の組み立て(語形成)	4
4. 語彙の意味について	9

ユニット1 動詞・名詞・外来語

1. 字音語と拼音字母との対照	11
2. 漢字の一部が同じ音を表わす字音語	12
3. 漢字音が2種類ある音	14
4. 同音多義語の字音語	15
5. 漢語の類語	24
6. 和語動詞の同音異義語	30
7. 意味分類による和語動詞の類語	35
A. 手・腕・指先を中心とした動作	35
B. 足・羽を中心とした動作	36
C. 口の動作	37
D. 目の動作	38
E. 耳・鼻の動作	39
F. 身体の動作	39
G. 発言の動作	40

H. 思考・認識の動作	41
I. 感情・感覚の動作	42
J. 精神・好悪の動作	44
K. 移動・運動の動作	45
L. 破壊・変形の動作	48
M. 料理に関する動作	50
N. 自然に関する動作・現象	51
8. 和語名詞の同音多義語	52
9. 特別な読み方	56
10. 外来語	58
練習問題	59

ユニット II い形容詞・な形容詞・連体詞

1. 形容詞の種類	113
2. 形容詞の派生語	113
3. 形容詞の意味	115
4. 連体詞の種類と用法	121
練習問題	123

ユニット III 副詞

1. 副詞の種類	143
2. 副詞の意味	144
A. 様態を表わす副詞	
① AっBり型/AんBり型	144
② ABAB 型	146
③ AAと/に型	148
④ A 然(と)型(字音語)	149
⑤ Aんと/Aっと型 その他	149
B. 程度・量を表わす副詞	150
C. テンス・アスペクトを表わす副詞	152
D. ムードを表わす副詞	155
E. 評価を表わす副詞	158
F. 発言・限定を表わす副詞	160
練習問題	161

ユニットⅣ 接続詞

練習問題	181
------------	-----

ユニットⅤ 敬語表現

A. 尊敬語	185
B. 謙譲語Ⅰ	187
C. 謙譲語Ⅱ	188
D. 丁寧語	189
E. 美化語	189
F. 語をめぐる問題	189
練習問題	191

ユニットⅥ 慣用句・ことわざ・格言

《身体名詞をつかった慣用句》	193
《格言(故事成語)》	197
《ことわざ》	198
練習問題	199

ユニットⅦ 擬態語・擬声語

練習問題	209
------------	-----

【解答】	211
------------	-----

日本語の文字・語彙について

1 日本語の漢字音

日本はもともと、「無文字社会」であった。約 2000 年ほど前に中国から中国文化と漢字がはいってきた。漢字は漢族が使う文字であり、漢族がつかうことばが漢語である。漢語は、「漢・蔵語族系(Sino-Tibetan language family)」に属し、日本語とは言語系統を異にする。漢語は一字一音節、つまり一つの単語は一つの音節で一つの文字である、というのが原則である。孔雀、鸚鵡、駱駝、胡麻、琵琶、蒟蒻のような二音節語は、古い漢語の外来語であり、例外である。なんと、これらの古い漢語は現代日本語でもつかわれている。

漢字・漢文は、はじめは中国や朝鮮から渡来してきた人たちによってつかわれたが、やがて、日本人の貴族・知識階級も学んでいった。日本語と漢語の接触が始まったのである。

中国から漢字が伝わってきた時代は、ほぼ次の三回である。

- ① 呉音: 三世紀から六世紀ごろ(南北朝時代)に、長江下流域地方(現在の江蘇省あたり、呉^{くれ}といった)の古代呉語の系統の音が、朝鮮経由で入ってきた。対馬音、和音ともいう。仏教、医術関係の語に多い。正直(ショウジキ、セイチョク)、明日(ミョウニチ、メイジツ)、小児科(ショウニカ、ショウジカ)、外科(ゲカ、ガイカ)、如来(ニョライ、ジョライ)、精進(ショウジン、セイシン)など。下線部が呉音。そうでないのは漢音。
- ② 漢音: 七世紀ごろ隋から唐中期にかけての時代、平安時代のはじめ、中国に渡った留学僧や中国からやってきた中国人によって伝えられた。正音といった。言語(ゴンゴ、ゲンゴ)、快楽(ケラク、カイラク)、命(ミョウ、メイ)、京(キョウ、ケイ)など。下線部は漢音、そうでないのは呉音。ほとんどの漢字音は漢音。
- ③ 唐音: 十二世紀から十五世紀ごろ南宋、元、明の時代、鎌倉、室町時代に禅僧によって

伝えられた。仏教関係の語に多い。唐宋音、宋音ともいう。鈴(リン)、行燈(アンドン)、子(ス)など。唐音は非常に少ない。

ところが、日本語の音節は、アイウオの母音で終わる「開音節」構造である。日本にはいつてきたほとんどの漢字は、六朝時代から隋・唐の時代にかけての中古漢語である。中古漢語の音節は、「開音節(子音+母音)」の語もあるし、「-n」「-ng」で終わる音、また、「-p, -t, -k」の子音で終わる入声音(にゅっしょうおん)の語もあった。親戚でもない漢語を日本語の音節構造に合うようにするには、さまざまな工夫が必要であった。「-n」の音は、三→「サン」、音→「オン」、人→「ニン、ジン」のように「ン」で終わる音、「-ng」で終わる音は、江→「コウ」、唐→「トウ」、経→「ケイ」のように「-イ、-ウ」で終わる長音にした。入声音は、「-フ、-ツ、-ク、-チ、-キ」で終わる音になった。たとえば、節(セツ)、骨(コツ)、白(ハク)、楽(ラク、ガク)、肉(ニク)、一(イチ)、七(シチ)、八(ハチ)、力(リキ)、直(ジキ)、敵(テキ)。

こうして、古代の日本人は、初めは、「夷^イ與^ヨ」(地名、現在の伊予)、「波^ハ流^ル」(春)、「阿^ア伎^キ」(秋)のように、漢字のもつ意味とは関係なく、漢字の音を借りて日本語を書きうつした。いわゆる「音かな」「音読み」である。次に、一つの漢字がもっている意味と同じことをあらわす日本語をあてるという方法が考えられた。「訓かな」「訓読み」である。「懷」という漢字を「名・津・蚊・為^シ」、「雪」を「由^ユ吉^キ」のように。

日本で一番古い歌の本『万葉集』(8世紀末ごろ成立)は、すべて漢字(万葉がなという)で書かれている。

余能奈可波 牟奈之伎母乃等 志流等伎子 伊与余麻須万須 加奈之可利家理(巻5・793)

これは、すべて「音かな」で、「よのなかは むなしきものと しるときし いよよますます かなしかりけり」と読む。

ところが、漢字の字体はやや複雑で、書くのにエネルギーを要する。そこで、漢字の字画の一部を利用した[かたかな](伊→イ、宇→ウ、江→エ)、漢字の草書体をくずした[ひらがな](安→あ、仁→に、礼→れ)が生みだされ、日本語の表記法は、漢字、かたかな、ひらがなの三種類となった。現代語ではローマ字も加わり、およそ5千種類ぐらいある世界の言語の中で、文字(表記法)が一番多い言語であるといえよう。

音読みとは、古い中国の漢字音を日本語風(日本語の音韻に則して)に発音した音であり、訓読みとは、その漢字の意味、解釈を和語つまり純粋日本語であらわしたものである。現代漢語の漢字の発音から日本漢字の音読みは、ある程度推測できる。おおざっぱに言って、次のようなことを知っておけば便利だ。もちろん例外もある。

A 拼音文字(有気音か無気音かは問題としない)が同じであれば、同じ発音(清音か濁音かは問題としない)になる場合が多い。

精(jing→セイ) 静(jing→セイ) 請(qing→セイ) 青(qing→セイ)

B -n 音→-ンでおわる

天(tian→テン) 翻(fan→ホン) 身(shen→シン) 前(qian→ゼン)

C -ng 音→ーイ、またはーウでおわり、長音。

形(xing→ケイ) 正(zheng→セイ、ショウ) 臓(zang→ゾウ)

D j、q、xではじまる漢字音は→gー、kー音になる場合が多い。

筋(jin→kin キン) 勤(qin→kin キン) 欣(xin→kin キン)

E hではじまる漢字音→gー、kー音になる場合が多い。

汗(hai→kai カン) 韓(han→kan カン) 亥(hai→gai ガイ)

F -ü 音→拗音。

旅(lü キョ) 去(qu キョ) 居(ju キョ)

2 日本語の語彙

おおまかにいうと現在の日本語の語彙体系は、次のようである。

- ① 和語：純粹の日本語 約40% ふゆ、が、くる、と、とても、さむい
- ② 字音語：漢語と和製漢語 約45% 会社、記者、出張、命令、最近、大根、価格、上昇
- ③ 外来語：約10% グローバル、バス、ガラス、フライト、エコカー、ナイス、ニーズ
- ④ 混種語：約5% プログラム言語、赤ペン、白ワイン、急ピッチ、カラー印刷

和語は、昔からあるもとの日本語である。「こどもはそとでたのしくあそんでいる」は、すべて和語だ。ただ、表記法として語と語の区切りがわかりにくいために、「子どもは外で楽しく遊んでいる」と漢字まじりで書く。視覚的にわかりやすいから、現代日本語ではこう書くのが普通である。そうかといって、「写真をとる」「休みをとる」「魚をとる」「ノートにとる」などの「とる」を「取、獲、撮、採、捕、執、盗、録」の漢字の中からどれをつかうのか、なやむ必要はない。漢語としては、「取」「採」「捕」などはそれぞれ別の語であり、和語「とる」は、日本人には、一つの語として意識されるのである。和語の副詞や動詞はできるだけひらがなで書くのがいいように思われる。

ややこしいのは字音語である。字音語は、文字通り漢字を音読みする語であるが、中国から入った字音語と日本人がつくった「見物」「残念」「安産」「年始」「暑中」などの和製漢語がある。

また、江戸時代末から明治時代にかけて、中国で出版された『英華辞典』などが大きな影響を与え、英語などからの翻訳漢語が日本語の語彙の中に大きな比重を占めるようになった。「告訴」「内閣」「主権」「天使」「比例」「星座」「熱帯」「電気」「血管」「判断」「意見」などである。

また、明治時代には、欧米の文化を取り入れる過程で、大量の和製漢語が作られた。中国の『辞源』(1915年初版)に収められた和製漢語には、次のようなものがある。「作物」「免許」「大工」「大統領」「会社」「消防」「案内」「注文」「看板」「窒素」「弁当」など。

また、日本人が古代中国語から復活させた欧米語の翻訳漢語として次のものをあげている。「文学」「文明」「物理」「鉛筆」「方面」「法律」「自由」「住所」「経済」「革命」「環境」など(高名凱『現代漢語外来詞研究』(1958)により)。

上に見たように日本語の中の字音語は、その由来は複雑である。

混種語はもっとめんどうだ。古くは、漢語に和語「す」をつけて、サ変動詞にしたものがすでに平安時代には存在した。「死す」「対面す」「用意す」「講ず」「臆す」「制す」など。現代語では、「努力する」「準備する」「研究する」「トライスル」「コピーする」などいくらでもある。外来語に「る」がついた動詞もわずかだがある。「サボる」「ダブる」など。「カラオケ」という語は、何もはっていないという意味の和語「カラ」に外来語の「オーケストラ」(管弦楽)の省略表現「オケ」がついた。「折れ線グラフ」は[和語+漢語+外来語]、「超薄型テレビ」は[漢語+和語+和語+外来語]、「台所」「気持ち」は[漢語+和語]、「場所」「白砂糖」[和語+漢語]の組み合わせである。

最近、カタカナ語、つまり外来語が科学技術、スポーツ、音楽方面など専門分野ではどんどん増えている。

3 日本語の語彙の組み立て(語形成)



「ひざ」「するどい」「なでる」「すんなり」のように、語が1個でできている語を[単純語]といい、「やり手」「高熱」「飛び跳ねる」「ぎっくり腰」などのように1個の自立成分と他の成分との組み合わせによって成り立った語を[合成語]という。[合成語]は次の3類にわけられる。

- 複合語: 複数の自立成分からなる語…やきめし、土砂降り、口当たり、身勝手
- 量 語: 家々、売り売り、しろしろ、よくよく、あつかれさむかれ、こらこら
- 派生語: 大雪、さみどり、ご馳走、看護師、皮肉めく、こどもらしい、データー上

とくに複合語の統語構造は、構文構造とも関係があり、品詞性も問題になるので、複合語の各成分と語全体の品詞性について考えてみよう。

A 統語構造の複合語

(1) 名詞をつくる

- a 名詞+名詞→名詞

紙くず、地盤沈下、為替暴落、歯ブラシ、トラック輸送、ビニール袋、事故死、光化学

スモッグ、春雨、夜桜、大気汚染、冬景色、チームプレイ

b 名詞＋動詞→名詞

梅雨明け(梅雨があける)、草とり(草をとる)、川くだり(川をくだる)、里帰り(里に
かえる)、バターいため(バターでいためる)、下着(下に着る)、湯あがり(湯からあ
がる)、近所づきあい(近所とつきあう)、船酔い(船に酔う)、東より(東へよる)、底
びえ(底までひえる)、客扱い(客として扱う)

c 動詞＋名詞→名詞

煮魚、見せ物、歌い手、引き潮、働き者、揚げパン、釣り糸、申し込み書

d 動詞＋動詞→名詞

病みあがり、しあがり、建て売り、渡りぞめ、植え込み、降りどおし、働きづめ

e 形容詞＋動詞→名詞

お笑い、浅漬け、無理押し、急ごしらえ、やす売り、遠出、早送り、若死に

f 形容詞＋名詞→名詞

高値、長雨、悔し涙、近道、大国、高齢、難関、小品、強力

g 副詞＋形容詞→名詞

ごくぼそ、ごくやす、ごくぶと

h 副詞＋動詞→名詞

又聞き、きりきり舞い、ぽつと出、ちよつと見

i 副詞＋名詞→名詞

とんとん拍子、ただごと、どたばた喜劇

(2) 動詞をつくる

a 名詞＋動詞→動詞

根づく、芽ばえる、口ずさむ、巣立つ、裏切る、名づける、つちかう、基づく、いろど
る、恋する、組する、催促する、決行する、チャレンジする、マッチする

b 動詞＋動詞→動詞

逃げのびる、吐き出す、飛びまわる、追いかけまわる、走りぬく、呼びよせる

c 形容詞＋動詞→動詞

近よる、遠ざける、長びく、高鳴る

d 副詞＋動詞→動詞

もたもたする、ごわごわする、よろよろする、ひりひりする、きりきりする

(3) 形容詞をつくる

a 名詞＋形容詞→形容詞

身ざれい、物好き、世話好き、口下手、身勝手、足まめ、肌さむい、口汚い

b 動詞＋形容詞→形容詞

寝苦しい、聞きぐるしい、忘れがたい、考え深い、まちどおしい

c 形容詞＋形容詞→形容詞

ばか正直、器用貧乏、勝手気まま、陰気くさい、古くさい、浅黒い、かたくるしい

d 名詞＋動詞→形容詞

間拔けな、耳ざわりな、気詰まりな

(4) 副詞をつくる

a 動詞＋助動詞→副詞

絶えず、とりあえず、なるべく、しかるべく

b 副詞＋副詞→副詞

なおかつ、はたまた

c 動詞＋動詞/活用形→副詞

さしあたり、とりわけ、きわめて、まして、断じて、頑として

d 名詞＋助詞→副詞

時に、もとより、いつか、なにやら、一段と

e 擬態語・擬声語→副詞

ガチャン(と)、ふわふわ(と)、ふんぶん(と)、すんなり(と)、じわじわ(と)、しんしん(と)

B 並列構造の複合語

(1) 類義成分を並列

名詞：手足、田畑、父兄、放棄、庭園、家屋、宮殿、土砂

動詞：へりくだる、うけたまわる、凝り固まる、奪い取る、増加する

形容詞：濃厚な、安楽な、卑俗な、公明正大な

(2) 対義的な成分を並列

名詞：うらおもて、あさゆう、あとさき、うちそと、にしひがし、かげひなた、天地、表裏、古今、本末、因果

動詞：出し入れ、上げ下ろし、勝ち負け、やり取り、貸し借り、浮き沈み、寝起き、曲げ伸ばし、行き来、点滅する、伸縮する、加減する、開閉する

形容詞：たかひく、よしあし、明暗、善悪、遠近、紅白、長短

C 畳語

(1) 畳語

名詞：津々浦々、神々、あとあと、先々、前々、いついつ、これこれ

動詞：うきうき、思い思い、かさねがさね、みすみす、こりごり、しみじみ

形容詞：うすうす、たかだか、やすやす、あかあか

副詞：まだまだ、どうもどうも、どうぞどうぞ

感動詞：あらあら、いやいや、おいおい、おやおや

(2) 準疊語

負けず劣らず、思わず知らず、遅かれ早かれ、にっちもさっちも

D 派生語

(1) 接頭辞

a 形容詞性接頭辞

おお→大筋、大晦日、大詰め

だい→大失敗、大会社、大歓迎

たい→大衆、大差、大役

こ→小粒、小男、こざっぱり、こにくらしい

お→小川、小野

しょう→小休止、小生、小論

しん→新時代、新学期

はつ→初孫、初節句

ま→真人間、まっぴるま、まっただなか、まんまる

き→生まじめ、生醤油

す→素足、素顔

かた→片親、片手、片腕、片時

ちょう→超特急、超能力、超人

b 待遇性接頭辞

お→お役、お中元、お歳暮

おん→御社、御礼

ご→ご本人、ご無礼

ど→どえらい、どぎも、ど根性

c 否定性接頭辞

不→不確か、不便、不備、不利

非→非課税、非番、非行、非情

無→無利子、無理解、無質

無→無愛想、無粋、無沙汰

d 漢語性接頭辞

反→反体制、反主流

抗→抗菌力、抗生物質、抗ヒスタミン剤

被→被爆者、被告、被選挙権

e 動詞・形容詞につく接頭辞

ほの→ほの白い、ほのめく、ほのめかす

うち→うちあける、うちとける、うちきる

もの→もの悲しい、ものめずらしい、ものがたる

か→か細い、か弱い

(2) 接尾辞

a 名詞性接尾辞

- i 待遇表示: 一様^{さま}、一さん、一ちゃん、一君^{くん}、一殿^{どの}、一氏^し、一先生、一女史
- ii 複数表示: 一がた、一たち、一ら、一ども
- iii 助数詞: 一つ、一り、一個、一枚、一本、一匹、一頭、一羽、一両、一台、一冊、一
隻、一艘、一人、一件、一軒
- iv 人物表示: 一人^{にん}、一人^{じん}、一者、一師、一家^か、一家^や一屋^や、一坊^{ぼう}、一士^し、一手^て、一手^{しゅ}、一夫、
一婦、一員
- v 金額表示: 一料、一費、一代、一賃
- vi 建物表示: 一屋、一館、一舗、一亭
- vii 抽象性表示:
 - 一さ 豊かさ、たのもしさ、ありがたさ
 - 一み 高み、深み、強み、真剣み、ありがたみ
 - 一け 水け、食いけ、おじけ、吐きけ、眠け
 - 一性 封建性、酸性、アルカリ性、夜行性、向日性、抽象性
 - 一化 機械化、無人化、酸化、強化
 - 一主義 モンロー主義、楽天主義、マルクス主義
 - 一子 分子、帽子、格子、菓子
 - 一流 主流、亜流、本流、上流、自己流
 - 一風 昔風、当世風、サラリーマン風
 - 一味 醍醐味、甘味、酸味、辛味
 - 一用 化粧用、社用、商用
 - 一視 危険視、白眼視、同一視
 - 一式 西洋式、仏式、略式、本式

b 動詞性接尾辞

- 一がる おもしろがる、ほしがる、いやがる、痛がる
- 一ぶる 学者ぶる、ハイカラぶる、兄貴ぶる
- 一ばむ 汗ばむ、気色ばむ、黄ばむ
- 一じみる 汗じみる、子どもじみる、老人じみる
- 一まる 丸まる、広まる、深まる、固まる
- 一める 丸める、広める、深める、固める
- 一かねる いたしかねる、まちかねる、見かねる
- 一たつ 勇みたつ、引きたつ、いきりたつ
- 一だつ 泡だつ、いらだつ、目だつ、殺気だつ
- 一る サボる、ダブる、デモる、ツモる(マージャン用語)

一めく ときめく、色めく、なまめく、さざめく、よろめく
 一つく 病みつく、さびつく、ひつつく、ぐらつく、もたつく

c 形容詞性接尾辞

一い 黄色い、四角い
 一しい 毒々しい、おとなしい、長々しい、なつかしい
 一っぽい 女っぽい、骨っぽい
 一がましい 弁解がましい、晴れがましい、恩着せがましい
 一らしい 男らしい、女らしい、わざとらしい、しかつめらしい
 一づらい 話しづらい、歩きづらい、食べづらい、読みづらい
 一にくい 言いにくい、こわれにくい、のみにくい
 一やすい 燃えやすい、着やすい、変わりやすい
 一がたい 信じがたい、想像しがたい、得がたい
 一な あたりまえな、ざつくばらんな、オリジナルな、ゴージャスな
 一的な 科学的な、日本的な、代表的な、ハムレット的な

d 副詞性接尾辞

一と ころりと、すくすくと、堂々と、ぐっと、わざと、割と
 一に ことに、まっしぐらに、今に、互いに、特に、現に、一概に
 一然 依然、呆然と、平然と、悠然と
 一上 手続き上、法律上、形式上

4 語彙の意味について

ある言語が他の言語に対応する場合、1対1の関係ではなく、1対多の関係であることが多い。中国語と日本語は漢字を共有しているので、とくに字音語は注意が必要だ。中国語の【热水】は、日本語では「ゆ」であって、「あつみず」ではない。英語も「ゆ」は、hot water。中国語【水】は、あつかろうが、つめたかろうが水素2分子と酸素1分子が化合した物質のこと。日本語では「みず、ゆ」に対応する。中国語の【头】は首から上の部分で、日本語の「あたま(頭)」は髪の毛がある部分だ。中国語の【门】(中国語では、戸、つまりドアの意味で、日本語の「門」ではない)、【检讨】(日本語では、いいかどうか、いろいろ調べて考えること)、【审判】(中国語では、「裁判」の意味だが、日本語では競技などの判定の意味)、【脚气】(日本語では、水虫)など、意味のずれが多いので、漢語については注意が必要である。

本来の日本語(和語)では、1語として意識されるが、中国語としては、別の語として意識されている語が数多くある。和語「つく」は、「自分とは関係なかったものやことが、あるものや場所に接触して、離れない状態になる、また新しい状態にかわる」というのが意義素。「汽車がつく」「泥がズボンにつく」「最近肉がついた」「会長の任につく」「球をつく」など。